

第一部 共同研究

「自ら学ぶ力」が育つ学習指導

— 総合学習を通して —

第 1 章 研究の構想

I 研究の歩み

1. 「自ら学ぶ力」のとらえかた

本校は昭和50年に「学ぶ力」「学びとる力」を研究主題に掲げ、昭和63年から「自ら学ぶ力を育てる学習指導」、さらに平成4年から『「自ら学ぶ力」が育つ学習指導』と、一貫して生徒の「学ぶ力」を追求してきた。

その間、それぞれの「力」について若干の修正を加えながら、次のような定義を行った。

(1) 「学ぶ力」と「学びとる力」(昭和60年～)

① 学ぶ力

生徒一人一人が「基礎・基本」のうえに立って自らの目標や課題を設定し、それに向かって自己統制しながら計画を立て、実行し、評価していこうとする力である。さらに計画自体を柔軟に修正し、自己改善を図っていこうとする「意志・態度・能力」「自ら学ぶ意欲」「学び方の習得」であり、よりよい「生き方」を創成していく力である。

② 学びとる力

基礎・基本となる知識・技能を獲得し、学び方や意欲、態度を身につけることによって、主体的に学び続けることのできる力である。⁽¹⁾

(2) 「自ら学ぶ力」(昭和63年～)

① 生徒一人ひとりが「基礎・基本」のうえに立って自らの目標や課題を設定し、それに向かって自己統制しながら計画を立て、実行し、評価していこうとする「意志・態度・能力」であり、さらに計画自体を柔軟に修正し、自己改善を図り、よりよい「生き方」を創成していく力である。⁽²⁾〔なお平成元年からは「計画自体」を「計画全体」と修正した。〕

② 生徒一人ひとりがよりよく生きるために、自ら目標を決定し、それに向かって自己統制しながら計画を立て、実行し、評価することのできる能力や意欲、態度。⁽³⁾

こうした経緯から、本校における「自ら学ぶ力」育成の最終の目的は「よりよく生きる」ことをめざすものであった。これがどのようにして達成されたかと考えるかについて、生徒の立場でみると、

① 自分の目的を持って主体的に行動できた時。(主体性)

② 自分の存在や行動が、まわりのみんなから認められ、喜ばれた時。(社会性)

③ より高い価値(認識)へ、一歩でも前進したと感じられた時。(向上性)

の3つの場合であるとし、生徒の望ましい姿を「価値的に生きる」こととした。

以上のような定義の変遷には、昭和60年から北尾倫彦氏の指導により各教科の学習を「受容型」「追求型」「選択型」に分類して研究したこと、平成4年から各教科の学習だけでなく、道徳・特別活動の教科等の学習を加えて研究したこと、平成5年から総合学習を新設し、水越敏行氏の指導により研究を行ったという背景がある。

2. 総合学習の実施

道徳と特別活動の研究発表を終えた時、多くの教官から「人間の生き方について影響を与えるとされる問題、例えば環境やエネルギーに関する問題であるとか、家族とか社会生活に関する問題などについて、積極的に取り組むことがよりよい生き方を志向するためにはぜひとも必要である。」との意見が出た。そこで、各教科の学習、教科等の学習、選択教科の学習に加えて、教育課程上では「その他特に必要な教科」として位置づけた総合学習を新設した。

それは、下記のような本校の基本目標(附中のめざす生徒像)からも、ぜひ必要であると考えた。

基本目標(附中のめざす生徒像) :

信条を帯し、国際社会において活躍できる人材の育成

1. 創意を生かし、意欲的に学習する生徒の育成
2. 豊かな情操をもつ生徒の育成
3. たくましい精神と強靱な身体をもつ生徒の育成
4. 勤労を重んじ、力をあわせて集団生活の向上に努める生徒の育成

さらに、現代の複雑かつ多様化する社会のなかで、国際理解、環境、情報、性教育、平和、福祉など一教科だけの枠ではなかなか捉えきれない大きなテーマが存在していること、そのなかで自分にとって必

要な情報の収集、加工・処理、活用する能力が求められていること、週5日制の完全実施にむけて授業時数が削減され、教科の再編が進もうとしていることなど、学校を取り巻くさまざまな社会的情勢からも、ぜひ総合学習が必要であると考えた。

そこで総合学習では「他人の視点に立って考える」「異なった視点を生かしながら考える」「可能性があるよりよい世界を考える」の3つの視点を掲げ、今日の急激な変化と情報化が進む社会のなかで、生徒が自分だけの世界に陥らず、各教科の学習、教科等の学習、選択教科の学習で学んだことをさらに深化

でき、あるいは一体化できるテーマ学習の場を設定した。同時に、この学習を進めるなかで、生徒は地域社会と関わり、これまで学習した各教科の学習、教科等の学習、選択教科の学習を関連づけたり意味づけたりすることができるようになる。その結果、個々の認識を空間的にも内容的（領域的）にも広げていくことができると考えた。

一方、従来の各教科の学習では、教科独自のねらいの他に表1のような認識を期待した。

そして、よりよく生きる生徒像を表2のように考え、学習を進めることとした。

表1. 各教科の学習においてめざす認識

教科	空間的・内容的な広がり
国語	自己内対話（聞き手） 人間 自然 文化
社会	科学的な社会・価値認識 社会的事象 時間 葛藤 文化
数学	問題解決 数学（史）の世界 思考追求過程（体験のくさび）
理科	科学的探究 自然 環境 科学（史）
音楽	表現活動 音楽 愛・友・夢
体育	スポーツ 運動文化（世界） 健康な生活
技家	自己表現 情報
英語	コミュニケーション English Native-Speaker
養護	社会自立 生活 ルール・マナー

(4)

表2. 各教科の学習におけるよりよく生きる生徒像

教科	よりよく生きる生徒像
国語	国語の能力を自らの生き方（生活）の中に取り入れていこうとする主体的な言語行動者（「能動的な自己活動をする」「通じ合おうとする」「ことばへの感性と認識を深める」生徒）。
社会	社会的事象の中から問題や課題を発見し、よりよい解決に向かって他と関わり、科学的方法によって主体的に追求したり表現する意欲や態度をもった生徒。
数学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既得知識を常に想起し、関連を図るように努め、考えることを楽しむことができる生徒。 2. 事象を数学を通して捉えようとし、多様な見方や考え方ができる生徒。 3. 自ら備えている可能性を膨らますことができる生徒。 4. 自ら考えていることを自覚し、自己の行為を振り返ることができる生徒。 5. 数学の言葉を用い、筋道をたてて相互にコミュニケーションを図ることができる生徒。
理科	<p>【主体的に生きる】・ありのままの自然を、よく観察しようとする生徒。・自然から得た知識を生活に役立てようとする生徒。・自分なりの仮説をもって自然をみようとする生徒。・納得のいくまで自分の考えを問い直そうとする生徒。</p> <p>【社会的に生きる】・互いの意見を出し合い、正しい意見には耳を傾けようとする生徒。・自分の意見を論理的に説明し、みんなにわかりやすく伝えようとする生徒。・科学や科学技術の有効性・危険性についての見解を持ち、今後の進むべき方向について考えようとする生徒。・科学や科学技術が人間社会に与える影響について考えようとする生徒。</p> <p>【価値的に生きる】・自然の美しさや自然のしくみのすばらしさに感動する生徒。・科学的解明方法や科学技術のすばらしさに感動する生徒。・より真実な認識へむかって追求する生徒。・人間の行動が自然に与える影響について考え、自然と共存した生活をしようとする生徒。・合理的な考え方や行動をしようとする生徒。</p>

体 育	これから行う運動が自分の何たるかを問い続ける生徒。運動を行うことの自他の価値を発見・追求する生徒。
美 術	1. 創造活動を通して自己を見つめるとともに、今まで知らなかった自分の力（可能性）を発見し、達成感や充実感を味わい、自ら更に高い次元を求め積極的にアプローチできる生徒。 2. 自分らしい表現を追求しながらも互いの良さ（個性）を認め合い、学び合い支え合いながら学習（活動）していける生徒。
英 語	相手の話を真剣に聞くことができる生徒。積極的に自分の考えを相手に伝えようとする生徒。向上心を持って、自ら学習に取り組める生徒。自国や外国の文化に興味を持ち、理解しようとする生徒。
養 護	自分自身の能力や行動内容をより高め、充実していこうとする生徒。

(5)

こうして身につけた認識は、学校のみで帰結するものではなく、常に社会のなかで生かされるものである。また、社会からも学びながら深めるものでなければならないと考えたのである。

II 本年度の研究構想

上述のことをふまえ、これまでの定義に若干の修正を加えて、研究のねらい、仮説や内容などを次のように焦点化した。

1. 全体構想

(1) 「自ら学ぶ力」の定義

よりよい社会をめざすために、生徒一人ひとりが自分の生き方を高め、自ら目標を決定し、それに向かって自己統制しながら計画を立て、実行し、評価することのできる能力や意欲、態度。

(2) 研究のねらい

各教科の学習、教科等の学習、選択教科の学習、総合学習における学習のねらい・内容・方法を明確にした上で、それらの連続性と相互補完の関係を研究し、よりダイナミックな学習にしていこうための具体的方策を工夫する。

(3) 研究仮説

各教科の学習、教科等の学習、選択教科の学習、総合学習の間の連続・相互補完関係を明確にした授業を行えば、生徒の認識は空間的にも領域的にも広がり、「自ら学ぶ力」が育つであろう。

(4) 本年度の研究のねらい

① 各教科の学習や教科等の学習で身につけた認識が選択教科の学習や総合学習でどのよう

に生かされ、発展しているか。また、「福祉」「環境」「国際理解」のテーマを各教科の学習、教科等の学習、選択教科の学習では、どのようなアプローチで、どこまでその目的の達成が可能か実証する。

② 週休2日制の完全実施を考えた時、時間数の削減にあわせ、各教科における基礎・基本を明確にし、教科内容の精選を行わなければならない。そこで、これからの時代に要求される学力とはどんなものであるのかの検討と、各教科での内容の精選のための観点を明らかにする。

以下、総合学習の基本的な考え方とその実践を中心に述べ、教科の学習、選択教科の学習とのちがいと今後の中学校教育の在り方を考察してみたい。

(文責 梶谷光弘/研究部)

2. 「教科の学習」について

各教科では、①自分の生活と教科を関連づける、②進んで事象に関心を持つ、③より高い価値を意識しながら学習に取り組んでいる。

特に本年度は、大学との教育懇話会を表3のように実施した。また、よりよく生きる生徒像及び今年度の研究の重点について、表4、表5のような意見を交わした。

各教科ともよりよく生きる生徒を目指し、それぞれの特性を活かしながら、アイデアや工夫を凝らして取り組んでいる。それらは教科の本質を問うものであったり、物事を考えるための手段であったりする。しかし、そのどれもが様々な角度から物事を見たり、感じたり、考えたりすること

ができる生徒を育てるための手段であることは言うまでもない。

教科を通して自ら学び、自らを高めていける題材や教材の開発、他教科との合科、生徒が考える

場作りといったことへの意欲的な試みを重ねていくが、その根底には生徒を認め、生徒と共に高まっていって姿勢を大切にしたいと考えている。

(文責 安達 直幸/研究部)

表3 教育懇話会公開授業一覧

☆公開授業Ⅰ

教科	年・組	単 元 名	指 導 者	場 所
国語	3-3	思いを朗読で伝えよう	佐藤 文宣	3年3組
社会	1-4	拡大するEU	岩田 靖	1年4組
数学	1-1	不等式	奥村 泰磨	1年1組
理科	2-1	天気とその変化	西山 成信	第2理科室
音楽	1-3	私たちの「木琴」	今岡 正治	音楽室
保体	3-1	病気の予防	上代 裕一	3年1組
技術	2-4	電熱器具の温度調整のしくみ	長沢 郁夫	技術室
家庭	1-2	高齢者と家族・地域社会	三島 香子	被服室
英語	2-3	Kumi Talks with a Kite Flyer	中釜 智子	2年3組
特 殊 教 育		楽器をつくろう(全学年)	渡里 恭子	養護学級

☆公開授業Ⅱ

教科	年・組	単 元 名	指 導 者	場 所
国語	1-4	人間の姿	寺本 学	1年4組
社会	2-4	おもちゃの歴史～戦後の社会とこどもの遊び～	長岡 素巳	2年4組
数学	3-2	三平方の定理	西田 修	3年2組
理科	1-3	身のまわりの科学	高橋 伸二	第1理科室
音楽	2-3	合唱の楽しみ	布野 浩志	音楽室
美術	3-1	流木で工芸品をつくろう	持田 隆志	美術室
保体	2-1・2	球技選択	宮本 夏子・安達 直幸	体育館校庭
英語	1-2	できる?できない?	渡部 睦浩	1年2組
特 殊 教 育		秋の三瓶合宿(全学年)	斎藤 英明	養護学級

表4

	よりよく生きる生徒の視点について (ポイントのみ記述)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 言葉にどれだけ敏感になることができるか（言葉への関心・自覚）。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象と主体的にかかわり、多角的に追求する能力。 科学的に調査していく能力や態度。 共感できる能力。
数学	<ul style="list-style-type: none"> よりよく生きる生徒を育てていくには、生徒と教師が共によりよく生きることをめざし取り組む必要がある。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 科学的認識や科学的自然観は、はっきりと定義できないもので、社会的コンセンサスの得られたものである。 認識の段階は中学生と大人では違うので「科学と人間のかかわりについての認識」を重視するならば、認められる認識が大切である。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 将来性のあるとらえ方である。基本には生徒の主体性があり、よく現れている。
美術	<ul style="list-style-type: none"> よりよく生きるために中学生時代にどのような力を身につける必要があるのかを、生徒自身にも理解させる。
技術	<ul style="list-style-type: none"> 体験的な学習機会の充実。 製作題材の開発、教材教具の工夫。これらを通して実践的な態度に高めたい。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の生活の中で見過ごされそうな事から問題意識を持ち、解決し、生活化していく生徒。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 「遊び心（好奇心）」をもって内発的な運動欲求により自主的に活動できる生徒。 自分の存在が認められる集団。 より高い価値をめざす生徒。 生徒の「個人差」を受け入れた上でどう一人一人を生かすか
英語	<ul style="list-style-type: none"> 他者とかかわっていく生徒。 コミュニケーション能力の育成。 生きた英語のやりとりの場設定。スキット、ペアトーク、クラスルームイングリッシュ
養護	<ul style="list-style-type: none"> 進んで考え、動ける子どもをめざし、生活の中の課題を認識し、主体的に解決していく生徒。

表5

	本年度の研究の重点について
国語	<ul style="list-style-type: none"> よりよい言語生活の場作り。 主体的な言葉の使い手を目指す生徒。 豊かな通じ合いを求める生徒。 文化性に支えられた言葉の生活を見つける生徒。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 自己認識や価値の問い直しを図る学習過程。 人の生き方や価値観に触れることができる教材開発。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 授業実践は、具体的な例を示しながら行う。 「生徒が立ち止まって考える状況」の質の違いを明確にする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育的視点から理科教育をとらえ直す。 技術と理科の合科による単元構成。 環境問題教育に偏らない。 生活の場と結びついた授業作り。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の活動の場を設け、内面から喜びを感じることができる工夫を継続する。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に制作の意図や目的をはっきりさせる。 魅力的な教材、学習方法の研究。 認める場作り（展示など）。 短時間で効率の良い教材開発。 領域をまたがった複合的な教材開発。
技術	<ul style="list-style-type: none"> 電気領域による学習指導の工夫。バイメタルの構造や仕組みを、実験やアニメーションを利用して学習し、認識や思考の広がりをめざす。 学習指導におけるコンピューターの利用方法などの開発。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者問題への手がかり。 授業での劇化。 思いきった題材構成。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 選択制授業の活性化。（体育分野） 学習グループの機能性を高める。（保健分野） 内的動機づけの浸透を図る。
英語	<ul style="list-style-type: none"> スキット作り段階での多くの経験重視。 発話量を増やすためのペアトーク。 雰囲気や音になれさせるためのクラスルームイングリッシュの多様化。
養護	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に判断し、行動していくことから外に目を向け、他や社会とのかかわりを持っていくようにしていく。 交流活動を取り入れ、他校や地域へとかかわりを持っていく。

3. 選択学習について

(1) 選択教科のねらい

平成5年度から、中学校の新しい学習指導要領が全面実施され、選択教科は、学校選択から生徒選択へ、3年生では4教科から全教科へ、そして2年生で実技教科を中心とした学習が始まった。

現行の学習指導要領（平成元年発表）の選択教科の取扱いとして、社会の変化や多様化に対応していくために、「生徒の特性等に応じ多様な学習活動が展開できるように…」とある。選択教科のねらいをまとめると次のようになる。

《選択教科のねらい》

生徒自身の興味・関心や個性に応じて、学習する教科や学習内容を選択させ、個性を伸ばさせることをねらいとする。

さらに、本校では今年度の選択教科の努力点として、次の3つを目標に挙げている。

- ① 個を生かした適切な課題を選択できる能力の育成とその評価研究を行う。
- ② 学習計画を立案・修正し、他教科と関連づけながら現代的な課題を追求できる能力や態度の育成を図る。
- ③ 学習の成果をまとめ、表現できる力を育てる。

(2) 本校における選択教科の取り組み

社会の急速な変化や生涯学習体系への移行などに対応するため、自ら学ぶ力の育成や個を生かした学習指導が必要とされている。そこで、本校では平成5年度より、必修教科、選択教科、総合学習の3つのカリキュラムを図1のように併行して進め、教育効果を上げることをねらいとしている。

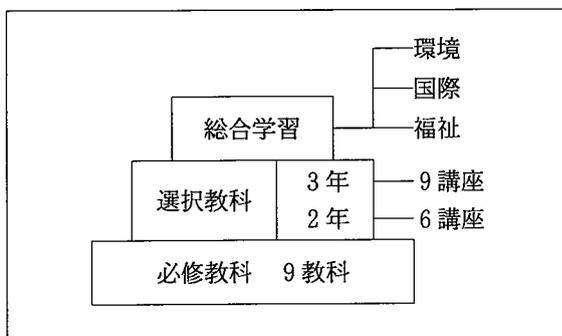


図1 本校の3つのカリキュラム

選択履修のカリキュラム編成から、生徒の選

択幅を考えると、必修教科等での教科内選択、選択教科での教科間選択、総合学習と選択の幅が広がり、その選択の機会が増えるにつれて、学習における生徒の主体性も高まっていくものと考えられる。

〈選択教科の学習内容と指導方法について〉

① 学習内容は、教科の内容を補充・深化・発展させたものを取り上げる。

② 指導方法は、追求型または選択型とする。

追求型→主体的に学ぶ能力や態度の育成を目指す。選択型→個性と創造性の育成を目指す。

〈本校の選択教科への取り組みの経緯〉

本校の選択教科の、平成元年度からの経緯は、次頁表6のとおりである。

① 3年生の8教科選択の実施による、選択枠の拡大について

平成元年度から3年生において、国語、社会、数学、理科、英語の5教科における選択の時間が試行的に設けられた。そして、平成2年度からは、英語を除く8教科での選択の時間を設定し、実践している。

② 2年生の選択教科

実技教科の4教科6講座を開設。今年度から、選択時間の30時間の拡大を行った。

(3) 平成7年度の選択教科の開設講座について

今年度開設された2年、及び3年の選択教科の各講座名と講座人数を表7、表8に示す。

2年選択は実技4教科と国際交流とで、6講座の開設。3年選択は6教科と国際交流とで、9講座の開設している。今年度の3年選択の国語科と数学科開設がないのは、担当者の持ち時数が多いことと、総合学習の講座が選択教科と併行して実施されるため、教員の負担を考えた教科の措置と考えられる。

各講座の人数の決定は、講座の開設希望人数を教官の方から示しておき、生徒の選択講座希望調査では、第3希望まで記入し、およそ第2希望以内で納まるように、人数調整をして決定している。

また、選択教科の履修期間は、3年選択が4月～10月、2年選択が11月～3月である。実施時期をずらし、週2時間連続の授業を基本として実施している。

(4) 選択教科実践の今後の課題

選択教科の開設や実践研究の今後の課題として、次のような点があげられる。

- ① 学習オリエンテーションの工夫を図る。
- ② 生徒の関心を引くものであるか、選択履修開設の基本理念に添ったものかを検討して開設する。
- ③ 合科の可能性はないかを検討する。例えば、今年度の3年選択教科の講座内容から合科学習の可能性を探ると、

【社会】…理科と数学の力をもとに日照権を考
える

〈社会+理科+数学〉

【理科】…ものづくりをしながら研究の仕方に
慣れる

〈理科+技術〉

【技術】…調理活動を取り入れた栽培学習

〈技術+家庭科〉

など、合科してT・Tの指導を取り入れること

で、より一層開設講座のねらいが達成される可能性はある。

また、国際化、情報化への対応として、2年生の国際交流では、E-mailを利用した講座も今年から新設されており、総合学習との連携も期待される。

④ 必修教科と選択教科、そして総合学習のそれぞれの特性を生かし、相互の関連を図って指導内容や指導計画を作成すること等である。

(文責 長沢 郁夫/研究部)

註

- (1) 本校『第30回中学校教育研究発表協議会要項』昭和61年
- (2) 同『第31回中学校教育研究発表協議会要項』昭和63年
- (3) 同『第34回中学校教育研究発表協議会要項』平成4年
- (4) 同『第36回中学校教育研究発表協議会要項』平成6年
- (5) H7年9月、各教科から提出されたプリントによる。

表6 選択教科及び、選択枠の拡大の流れ

(平成)	元年度	2年度～5年度	平成6年度	平成7年度
2年選択	—	—	20時間で新設	30時間へ拡大
3年選択	5教科試行	8教科実施	35時間	38時間へ拡大

表7 【2年選択教科】 平成7年度の選択教科開設講座名一覧表

講座	教科名	担当教官	選 択 講 座 名	決定人数
1	音 楽	布野	音の出る絵本 PART2	37
2	美 術	持田	メッセージ・アートをつくろう	19
3	体 育	安達・須藤	スポーツの楽しさを追求しよう	28
4	技 術	長沢	手作り工作を楽しもう	23
5	家 庭	三島	食生活をみつめよう	19
6	国際交流	中釜	国際交流～君の想いをE-mailにのせて	28

表8 【3年選択教科】 平成7年度の選択教科開設講座名一覧表

講座	教科名	担当教官	選 択 講 座 名	決定人数
1	社 会	梶谷	松江市の住環境を考える	3
2	理 科	浜田	自由研究	14
3	音 楽 A	今岡	Let's play MUSIC !!	28
4	音 楽 B	布野	Let's sing a song !!	14
5	美 術	持田	ウインド・ディスプレイに挑戦!	16
6	体 育	安達・須藤	生涯体育 スポーツ	38
7	技 術	長沢	調理活動を取り入れた栽培学習	23
8	家 庭	三島	手作りを楽しもう	15
9	国際交流	平野	国際交流を深めよう	4